〈高校保健〉

保健学習における生徒の可能性を引き出す実践の試み

── グループ活動における自由研究の取り組みを通じて ──

比嘉　正央＊　　安田　盛也＊＊　　大城　浩二＊＊＊

Ⅰ　テーマ設定の理由

近年，児童生徒の身体や心の健康問題，また，性や薬物を巡る問題行動，さらには世界的環境問題への取り組みなど，学校教育における保健学習の重要性は益々高いものとなってきている。高等学校においては，教科保健は２単位設定されており，その時間数をより有効に使うことが教師にも求められるところである。

しかしながら，生徒の意欲関心を高め，実践力へとつなげていく授業つくりには多くの課題を抱えている。知識重視型の教師の指導法から深化し，生徒主体の授業作りをすることで意欲関心を高め，自ら考え，より良い行動に結びつけられる力を生徒が獲得していくことは，生徒を取り巻く社会環境の現状からいっても急務であると考える。

この研究は，保健学習において体験・活用・参加型の授業をより有効に行い，生徒の可能性を引き出す実践の試みである。この実践により生徒が自ら考え，興味関心に応じて研究することで学習を深め，コミュニケーション能力の向上，さらには自己肯定感・有能感などを高めることでより良い実践力へも結びつけられることも期待する。

ここで学習する「自由研究」は，生徒がグループを組んで研究を行い，発表し，そして評価を全員で行っていくというものである。テーマを保健学習に関連する中から興味関心に応じて設定し，それについてグループ各々の方法で研究し，発表していく。また，研究においては，思考力・判断力を十分に活かし，そして人との関わりや仲間との協力体制を築いてもらうため，自ら研究機関や専門家，保健所等の行政機関に直接足を運び，調査・研究を行う方法を推奨する。

発表は全員で相互評価する機会ともなる大切な場でもある。グループの個性を生かし，様々な機器や手法を用いながら研究の成果が他の生徒にしっかり伝わるよう工夫をさせたい。それにより生徒に表現力の育成をはかることもできると考える。特に評価に関しては，教師が一定の合格基準を設定し，それに達成しない場合は何度も研究，発表を行わせることで，グループ活動の意識も高まり，個々の練り合いの中からより良いものが生まれていくものと確信する。

〈研究仮説〉

保健学習においてグループでの「自由研究」を行い，発表会を取り入れ，互いに相互評価する体験・活用・参加型の学習をすることによって，生徒の学習への意欲が高まり，個々の可能性が引き出されるであろう。

Ⅱ　研究内容

１　生徒の可能性を引き出すとは

「可能性を引き出す」とはつまり，生徒の持っている個性や能力を教科活動を通して十分に発揮出来るようになる，ということである。

生徒は皆，大きな可能性を持っている。その可能性に気づかせ，それを自分自身で認めるようになり，さらに表現出来るようになれば，それは素晴らしい成果となると考える。しかし，それを実現するするためには，様々な指導の工夫と信念ある教師の姿勢が求められる。なぜならば，すべての生徒がはじめから意欲的で自らの能力に気づいているわけではない，ということと，この活動を通して確実に生徒の可能性を引き出す成果を出さなければなければならないからである。

この研究においては「可能性」を「生きる力」（確かな学力・豊かな人間性・健康と体力）と定義し特にその中の「確かな学力」「豊かな人間性」に焦点を当てていく。この体験・活用・参加型の授業形態であるグループでの自由研究活動を通して「確かな学力」の思考力・判断力・応用力の育成をはかると共に，グループ内や学級全体，さらには研究機関等の社会との交流，コミュニケーションを深めることで「豊かな人間性」の育成にも寄与できるものと考える。そして，さらに重要なことは生徒自らが自分の可能性に気づくことである。

＊沖縄県立総合教育センター指導主事　　＊＊沖縄県立名護商工高等学校教諭　　＊＊＊沖縄県立石川高等学校教諭

(1) 自由研究の設定

自由研究は生徒がこれまで学んだことを活かし「保健」に関して興味を持っていることに対して自らテーマを設定し研究していく。できるだけ，幅広くテーマを許容することで，生徒は想像力をかきたてられ，自らの興味関心をより深く探ろうとすると考える。また，研究はグループを組み行わせることが大切となる。

(2) グループ活動について

研究は原則として，２～４人で行うことを推奨していく。それによりコミュニケーションが行われ，互いの練り合いが深まっていく。特に共同で研究をするために，意見の相違や，自我のぶつかり合いもある。しかし，自らの性格や個性に気づき，相手を認めながら人間性を育てることは，研究を成功するために欠かせないことである。グループ同士で協力する姿勢が様々な相乗効果を生み，より良い研究につながっていくものと考える。

(3) 研究の行い方

インターネットの普及により必要な情報が容易に入手できる時代となった。しかし，研究テーマについて調べ，そのままデータを流していくだけでは本当の研究成果にはつながらない。また，それをすべて許容すれば，情報を入手しやすい物の中からテーマを選出し，興味関心や意欲を育てる学習へとつながっていかないことにもなりかねない。

研究を進める上で大切なことは，真に何がしたいのか，あるいはどのようなことが自分たちにとって大切な学習なのか，等を真剣に考えさせることである。インターネットによる情報は補助的な役割としてとらえさせ，研究したことを自分のものになるようしっかりとした学習をさせたい。また，直に保健所などの機関を訪問，あるいは環境問題をテーマとするならそのポイントとなる場所の実地調査などを行わせること等を推奨していく。そのことにより専門性が深まるだけでなく，社会や地域との接点が生まれコミュニケーション能力や礼儀や言葉遣い，作法と言った力も自然と備わってくると考える。

(4) 発表の仕方

発表は全員の前で行う。研究したことをいかに全員に分かり易く伝えていくかがポイントとなる。そのため，掲示物や機器などを用い，その上で個性を発揮しながら発表していく。グループ員全員が発表にもしっかりと関わり，十分な力を発揮できたか，それらを全員で評価していく。また，説明等は原稿の棒読みではなく，自分の言葉で話すことを強く推奨していく。その課題を課すことで生徒は研究内容をより自分の物として理解していくことが出来るようになる。映像や動画，ロールプレイなども伝える手段としては有効である。

２　「可能性を引き出す」ことと評価のあり方

可能性を引き出すため，評価のあり方はとても重要である。まず，何を持って評価をするのか，あらかじめ生徒に伝えておくことは重要である。そして，生徒同士も相互評価することで，評価する方もされる方も互いに責任感を持って学習に臨むようになると考える。また，相互評価が妥協で安易なものになることがないよう最終の判断は教師が行う。研究・発表の過程で，十分な可能性を発揮していないグループには再度研究・発表の機会を与え再チャレンジさせていく。その厳しい姿勢を貫くことで生徒自身が自ら考え，反省しながらも気づきを得，より良い物をつくっていけるようになる。

３　教師の役割

クラス全体が発表に意欲的に取り組む雰囲気作りのために教師の役割は重要である。クラスや生徒の実態に応じては，なかなか研究に意欲的に取り組もうとしなかったり，他グループの発表を真剣に聞こうとしない生徒もいることがある。それは主に，評定や学習の目的にも意欲を失っている生徒であると考えられる。その様な生徒に対して教師の支援活動がより重要なことは言うまでもない。クラスメートの発表に対して「相手の思いやりを示すためにしっかり聞こう」や，自らの研究では「誰かの役に立つための発表をやろう」などの人間的な面や集団の連帯感を促していく支援，言葉がけが大切である。個々のグループの努力は全体によい影響を与え，また，集団の力も個々のグループに力を与えていく。教師がその大切にするべきポイントをしっかり生徒に感じさせる姿勢と力量が求められる。

Ⅲ　指導の実際

１　自由研究取り組みの年間の流れ

年間計画の中で学習べき全単元を終了してから自由研究活動に入るのは理想ではあるが，少ない授業数の中でそれは難しい。そこで，未履修の学習内容については，それを自由研究として生徒に取り

組ませることもできる。また，研究のための時間は総合学習や放課後の時間を使って行わせる。

［自由研究活動の年間の流れ］

月	説明内容	留意点
４月	年間のシラバス紹介の中でしっかりと説明する	・学習のまとめとして自由研究活動があることを理解させ，年間の目標を持たせる
11月	グループ結成の活動開始 自由研究活動の開始 研究のため訪問する公的機関などとの調整・文書発送	・発表順番の決定 ・方法と評価についての説明 ・文書は教師が用意し，発送する
12月中旬	発表の開始	・研究内容を他の生徒に伝えることで，学習の伝達はもちろん，職員の理解や本人たちの自他肯定感の向上にもつなげていく。
２月末から３月	全グループの発表が終わった後，各グループの研究物を校内掲示 お礼状の発送	・学校長名のお礼状の他，生徒からの感謝の言葉や研究の成果等を加える。

２　１時間の授業の流れ

発表会は１時間に２つのグループが行う。また，司会を含めて生徒が主体的に授業を作っているという雰囲気作りが重要である。１時間の授業の流れは以下の通りである。

［1 時間の授業の流れ］

時間	学習内容と生徒の活動	留意点
５分	挨拶　出席点呼	・ 発表者の心得と聞く者の心構えを説く。 ・ 評価の視点と方法を確認する。
	本日の司会者と発表者の確認	・ 司会は生徒が行うことが望ましい。
15分	○グループ1の発表	
５分	質疑応答	・質疑応答は発表者の評価にも良い影響を与えることを周知し，積極的な質疑を促す。
15分	○グループ2の発表	
５分	質疑応答	・各グループの要点をまとめ学習の深まりを促すと共に，研究から発表までの成果や課題を指摘し次時につなげる。
５分	教師からの好評	

３　発表の基本的な手順

発表の時間は約15分間とし，その後質疑応答を8分間設定する。全生徒が集中して聞けるために時間は15分程度が望ましい。また，基本的な発表の手順を以下のように設定する。

［発表の手順］

順	発表内容	割合	留意点
1	研究テーマ設定の理由	10%	なぜグループでこのテーマを選んだのか，その動機と目的を正直に素直な気持ちで話す。
2	研究の内容と考察	75%	研究の内容をスライドや掲示物などを使い発表する。また，編集・撮影した映像やロールプレイなどを用いるのも良い。グループの独創性や個性を発揮する様々な手法にも期待する。 問題等に対する課題，対策等をしっかり提案出来ることが大切。そのことで学習が生活に生かせるような手だてをとる。
3	まとめと感想	15%	研究内容や考察をわかりやすくまとめること

			で全員の理解を深める。 感想では研究，内容にとどまらず，活動の過程での気づきや個人・グループの成長，お世話になった方々への御礼など，その時の想いを素直に語る。
	質疑応答		多く質問が出ることは聞いている者の関心や意欲を引き出した証でもある。また，質問に的確に答えられるかは，グループの研究の深度を示すことでもあり重要である。

4　目標と評価規準

(1) 目標

① 体験・活用・参加型の授業を行い，学習への興味関心を促す。

② 基礎的・基本的な知識・技能の習得がはかられ，思考力・判断力・表現力を育成する。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
・興味関心に応じたふさわしいテーマを設定し研究に取り組んでいる ・グループ員と協力し合い意欲的に研究に取り組んでいる。 ・他班の発表をしっかり聞いている。	・研究の内容がよく検討され，考え出されたものになっている。 ・発表においては相手に伝わりやすい発表の方法になっている。 ・学習がより良い意志決定や行動選択する力ににつながっている。	・研究したことがしっかり自分のものとなり質問にも的確に答えられる。。 ・他班の研究発表をよく理解している。 ・学習したことが実践にうつせる力が備わっている

(3) 具体的な評価規準

	A（十分満足できる）	B（おおむね満足）	C(努力を要する生徒への手立て)
関心・意欲・態度	・より良いテーマが設定され，グループ員で協力し，よく研究された内容になっている。 ・発表においてはグループ員でよく協力し，個性やオリジナルティがよく発揮されている。 ・発表においてはグループの・資料や掲示物，発表資料などがわかりやすくまとめられている。 ・他班の発表をしっかり聞き，質問を積極的に行っている。	・グループ員で協力して研究に取り組んでいる。 ・グループ員で協力して発表に取り組み，各々の力が発揮されている。 ・資料や掲示物，発表資料などがよくまとめられている。 ・他班の発表をしっかり聞いている。	・ふさわしいテーマになっているか検討する機会を与え，必要に応じて助言する。 ・グループ員で協力して取り組める体制を確認させる。 ・調査・研究の方法を助言する。
思考・判断	・研究の方法や考察，まとめなどがしっかり行われ，オリジナルティがよく発揮されている。 ・発表においては，各々の力がよく発揮され，相手に伝わりやすいものになっている。 ・意志決定や行動選択する力がしっかり備わっている。	・研究の方法や考察，まとめなどがしっかり行われている。 ・発表においては，各々の力がよく発揮されている。 ・意志決定や行動選択する力が備わっている。	・研究の方法や調査の仕方など助言する。 ・より良い発表ができるための資料や掲示物の作り方，ＰＣ機器などの使用法等について助言する。
知識・理解	・研究したことが十分に理解され，質問等にも的確に答えられる。 ・他班の発表をよく理解でき，しっかりまとめられている。 ・学習したことが実践にうつせる力が十分備わっている。	・研究したことが十分に理解されてる。 ・他班の発表を理解でき，ノートにもしっかりまとめられている。 ・学習したことが実践にうつせる力がある程度備わっている。	・研究したことを自分の言葉で話せるよう助言する。 ・ノートのまとめ方について助言する。 ・実践力をつけるために各々の課題に気づかせる助言をする。

5　高等学校での実践例

この実践は県立普通高校１学年と職業高校２学年の２クラスで行ったものであり，共にはじめてこの学習を行ったクラスである。1 グループ２～４名でグループを組み，１クラス約12のグループが研究・発表を行った。以下，その主なテーマ一覧，相互評価シート，アンケート結果，生徒・教師の感想について紹介する。

(1) テーマと活動内容の例覧

テーマと活動内容の一例を表１で紹介する。

表１　テーマと活動内容一例

テーマ	活動内容
タバコについて	高校生の喫煙が問題となっていることから，生徒や職員に喫煙についてのアンケート調査を実施したり，学校周辺の落ちている吸い殻の本数調査を毎週実施したりしながら研究発表を進めていた。また，発表の中で喫煙の害だけでなく，タバコにまつわる社会的な問題（タスポ，医療費）なども取り上げた。
薬物乱用防止について	研究発表に加え，生徒自身で創作した劇を発表した。決してお笑いだけでなく教師自身も知らない最新の情報も取り入れられておりすばらしい内容となった。また，1・2 学期の保健評価が「1」だった生徒が積極的に研究発表に参加していた所が印象的であった。
電磁波について	携帯電話の電磁波の影響についてアンケートを実施して調査したり，インターネットで様々な情報を入手して，安全な使用方法について説明した。生徒にとっても身近な問題でもあり，すぐに改善に役立つ学習となった。

(2) 評価シートの主な内容

評価シートは生徒が相互評価を行うと共に，必要な知識を獲得するためにも，その記入は大切なものとなる。Ａ４サイズ用紙一枚の内容を紹介する（表２）。

表２　評価シートの内容

１．発表の内容はどうでしたか？
　　ア．とてもよい　イ．まあまあ　ウ．普通　エ．あまりよくない　オ．よくない
２．発表グループの協力度はどうでしたか。
　　ア．とてもよい　イ．まあまあ　ウ．普通　エ．あまりよくない　オ．よくない
３．発表グループの良かった点を教えて下さい。
４．今回の発表で勉強になったポイントを書いて下さい。
５．発表グループに対して何か質問があれば書いて下さい。

(3) 生徒の変容

このアンケートの11項目の質問において解答はすべて「とても高まった・ある程度高まった・普通・あまり高まらなかった・高まらなかった」の５つを設定した（表２参照)。このアンケートから「意欲・関心」「分析・判断」「知識の高まり」「グループの協力」「自分への自信」「役に立てた」「気づきや他者の理解」「新しい・深い体験」「コミュニケーション能力」「他グループの評価」「発表する力」のすべての質問に対し「とても高まった・ある程度高まった」が90%以上を占めていることがわかった。これは体験・活用・参加型のこの学習活動が生徒の思考力・判断力・表現力等を育成し，目標にある程度達成できたものと考えられ，この学習形態の有効性を示したものであると考える。

表３　アンケート結果

１　この活動を通して保健学習への意欲や関心が高まったか
　　とても高まった　68%　ある程度高まった　27%　普通　５％　その他０％
２　分析・判断したりする力が高まったか

とても高まった　68%　　ある程度高まった　23%　　普通　9％　　その他０％

3　研究や他の発表を聞くことで知識が高まったか

とても高まった　82%　　ある程度高まった　18%　　その他０％

4　グループで協力して活動することは高まったか

とても高まった　82%　　ある程度高まった　13%　　普通　5％　　その他０％

5　自分への自信が高まりましたか

とても高まった　36%　　ある程度高まった　54%　　普通　10%　　その他０％

6　誰かの役に立てたという思いは高まったか

とても高まった　50%　　ある程度高まった　40%　　普通　10%　　その他０％

7　自分への気づきや他者を理解する気持ちが高まったか

とても高まった　64%　　ある程度高まった　31%　　普通　5％　　その他０％

8　新しい体験や深い体験ができましたか

とても高まった　77%　　ある程度高まった　18%　　普通　5％　　その他０％

9　コミュニケーション能力が高まったか

とても高まった　45%　　ある程度高まった　45%　　普通　10%　　その他０％

10　他のグループの研究・発表はどうでしたか

とてもよかった　77%　　ある程度よかった　23%　　その他０％

11　発表する力は高まりましたか

とても高まった　59%　　ある程度高まった　32%　　普通　9％　　その他０％

(4) 生徒の主な感想

生徒の感想の一例を紹介する。この感想からは，生徒が様々な自己やグループの課題を克服し努力した様子がうかがえる。また，生徒自身がこの学習の有効性と学習への満足度を感じている。さらに，はじめの発表で合格がもらえなかったことで，奮起し，向上が見られた様子もうかがえる（表４）。

表４　生徒の主な感想

○とても楽しくできてみんなと一緒にやることの素晴らしさ，大切さがわかった。とてもいい学習だと思います。毎日調べたりみんなと打ち合わせをすることで充実感があった。発表も満足に出来，グループの仲も深まった気がする。

○研究を通して今まで知らないことがわかった。他のグループの発表を見て自分たちも頑張らないとだめだという気合いも出てきて，みんな真剣に取り組めたから良かったです。この学習はとても楽しかったです。

○人見知りが激しいので人の前で発表するのはとても厳しかったけど，知識が深まって，その上，グループの発表も素晴らしくてよかったです。パワーポイントはみんなとってもわかりやすくて良かったし，見習わないといけないと思いました。今回学んだことは，今後生活の役に立つと思います。

○タバコについて調べて，タバコが与える社会への影響や役割などいろいろなことがわかりました。そして，タバコを皆には吸って欲しくないと思い，その想いが届いてくれると嬉しいです。この発表をすることで本当にたくさんの経験が出来ました。グループの皆と協力して一つのことに取り組み信頼や互いを思いやる気持ち，そして自分を信じることの大切さを強く学びました。

○最初はとても緊張していて私に出来るわけないと思ってましたが，練習を重ねて２回目の発表のときには思いっきり伝えたいことを伝えることが出来，自信がつきました。また，普通の１時間の授業では比べられないくらいの知識も得ることが出来，友達と協力して夢中になって取り組んでいました。また，どうやって発表するか，何を伝えるか，など皆で考えていく中で一人一人が自分の意見をはっきり述べて，とても真剣に討論することもできました。この発表で得た自信をこれからの将来に役立てていきたいです。

○自分たちでテーマを決め，自分たちで調べるので，普段の授業より身につくものが多い。この経験を他の授業でも生かせると思った。また，発表している人の話を聞くのが上手になったと感じる。

(5) 実践後の教師の感想

教師主導型で授業を展開してきた教師がこの学習形態にはじめて取り組んだ感想を書いたものが次の表５・表６である。はじめ，この活動に不安を感じていた教師がその有効性を実感できるまでの動きがよく感じられる。

表５　教師の感想１

初めて「自由研究」を生徒へ実施してみて，計画段階の時から「保健」の授業への可能性を感じていました。実施してみての成功・失敗や達成度など不安はもちろんありましたが，それよりも私自身が興味のあるテーマについて，「自分ならこれだ。」「あの施設に訪問し質問したい。と想像が膨らんでいました。 私のこれまでの「保健」の授業でも「保健の授業でいろいろな情報を基に，先生と一緒に健康を学んでいこう。」と常々話していたので，それこそ生徒が興味を持ち，自分の足で探した実体験を素に調査・研究をし，またその成果を皆の前で自分の言葉で発表するというのは，これからも生徒が忘れられない授業，財産になっていくと感じました。ただし，「自由研究」以外の授業，日々の教師の授業への取り組みが大切だと「発表会」を通して感じました。今後も「自由研究」を継続して「生徒の可能性・財産」を拡げていきたいと強く感じました。

表６　教師の感想２

私は保健の授業を担当して 3 年の経験しかありませんが，こんなに生徒達がいきいきして授業を受けているのは初めてです。生徒もそのような取り組みを望んでいるようです。はじめ，学習意欲に課題のある本校で「自由研究発表」を行うのは無理じゃないかと思っていました。しかし，今はそれだからこそこのような生きた学習を行っていき生徒に自信をつけさせてあげる必要があると思っています。小中学校時代にあまり期待されていなかった生徒達だからこそ高校で彼らが主役になれる「自由研究発表」は生徒にとっても嬉しいようです。 この授業を実施して良かったと思う中で印象に残っている点を以下に上げてみます。 ① 生徒の目が輝いている。寝ている生徒や集中していない生徒がほとんどいない。 ② 研究発表を創っていくなかで子ども一人ひとりと教師の関わりが深くなった。 ③ 通常の授業形式では見ることのできなかった子どもの能力や可能性を実感することができた。(1・2 学期の評価が「1」だった生徒がものすごい研究発表をしたなど) ④ 教師自身も知らない知識やプレゼンの方法などを子どもから学ぶことができた。 ⑤ とにかく授業が盛り上がる。授業に行くのが楽しみ。 ⑥ 生徒間で研究発表の相互評価をさせているが，正当な評価（合格，不合格）をしてくれることがとても嬉しい。(自己評価では時折甘い評価をするグループもあるが，他者の評価と教師の評価はほとんどが同じである) ⑦ 発表のやり直しを通して子ども達の変容・成長が大きく見られる。

Ⅳ　まとめと今後の課題

体験・活用・参加型の自由研究をグループで行うことで，95%の生徒が学習意欲の向上を感じた。また，既習事項を基に研究を深め，それを発表する過程において思考力・判断力・表現力が培われ学力の向上がはかれたものと考える。さらに，グループや学級，あるいは社会との交流の中でコミュニケーションがよくはかられ，[豊かな人間性」の育成にも寄与できたものと考える。授業後のアンケートでは「生徒の可能性を引き出す」ことを目的としたこの実践において90%以上の生徒がこの活動の目標を達成できたことがうかがえた。また，教師の観察からは学習意欲の日頃高くない生徒の意欲的な活動が認められ，日常生活から生活を改善していこうとする生徒も出始めている。

生徒を主体としたこの活動は有効であり,そのことで自ら考え行動していこうとする力が養われていく。また，自我のぶつかり合いや自他を認めていく過程においては，個人が内面に抱えている課題などに積極的に取り組んでいくきっかけにもなり得た。しかしまた，学習したことをもとに，より向上させていくためには継続した学習機会が必要になってくる。多くの学校において教科保健１単位ずつを２年間にわたって行っているが，それぞれの学年に於いて連携して行うことで，経験が生かされ，より高度な自由研究へとつながっていくことも期待できる。生徒が主体的に取り組める学習活動は生徒に真に必要とされる「生きる力」を育むのに欠かせないものである。今後も継続的に研究を深め，各機関の専門家らとも連携を深めながら生徒の健やかな成長に寄与していきたい。